

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：34507

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520377

研究課題名(和文) アイルランド語文献と音声資料による近代アイルランド言語文化の多角的研究

研究課題名(英文) Studies of Modern Irish Culture through Sources in the Irish Language and Auditory Materials

研究代表者

谷川 冬二(Tanigawa, Fuyuji)

甲南女子大学・文学部・教授

研究者番号：50163621

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：今年度の研究実績として、二本の柱がある。三年間継続して行ってきたジェフリー・キーティング(Geoffrey Keating)が著したForas Feasa ar Eirinn(以下Foras Feasa)の解読と、2014年秋に開いたタイグ・オドゥーラニャ氏を講師とするセミナーである。

また、今期科研費を使用していないものの、掲げたテーマ「アイルランド語文献と音声資料による近代アイルランド言語文化の多角的研究」に含みうる活動として、梨本邦直をプロジェクト代表とするブライアン・メリマン著『真夜中の法廷』の解説付き訳書の編集・出版がある。これは、英訳を除けば、世界で二例目の業績となった。

研究成果の概要(英文)：In the last year of the current term Kyoto Society for the Research of the Irish Language and Literature has focused on the two research projects: one is the textual criticism of Geoffrey Keating's Foras Feasa ar Eirinn, and the other is Dr. Tadhg Shiune's Seminar Series on the text. The latter was held in October, 2014.

In addition, although not using Grants-in-Aid for Scientific Research, our society has been engaged in the annotated translation of Brian Merriman's Mheirtinín into Japanese with multiperspective analysis. This was the last stage of our long-termed thematic work, and with Nashimoto Kuninao as the project leader fruited to be the second publication in the history of its translation except for the English versions.

研究分野：W. B. Yeatsを入り口として、アイルランド文学、文化

キーワード：近代アイルランド語 俗伝承 神学的解釈 カトリック系イングランド人 17世紀ヨーロッパ アイリッシュ・カレッジ 規範的文体 歌謡 民

1. 研究開始当初の背景

京都アイルランド語研究会が平成 15-17、18-20 年度に受けた科学研究費補助金による研究結果として出版し文法書『アイルランド語文法—コシュ・アーリゲ方言』と論文集『今を生きるケルト』は、日本におけるアイルランドおよび連合王国域の研究に画期的な進歩をもたらすものであった。また、本研究会は、アイルランド語詩人ヌーラ・ニゴールを招いて朗読会を開き、アイルランド語文学研究者リーム・オムルフを招聘してセミナーと公開講演を開いた。これらの活動の継続として、18 世紀のアイルランド語資料のうち、多角的な、かつ包括的な研究に資すると思われるブライアン・メリマンの詩『真夜中の法廷(Cúirt An Mheon-Oíche、以下 Cúirt)』を選び出し、英語を通じての間接的研究では見逃されてきた現代の言語状況、文化状況を把握することにした。その結果、平成 21-23 年度においては、『真夜中の法廷』について a 梗概 b 日本語訳 c 文法分析 d 語彙分析 e 意味解釈注解 f 韻律分析 g 18 世紀の詩の伝統とアイルランド社会史がおおむね形を成した。

国内のアイルランド研究の全体的動向について目を向ければ、現在では、さまざまなグループが多様な形で共同研究を行なっている。日本アイルランド協会学術部による文学研究や歴史研究の例会は、東京においでますます盛んであるし、関西アイルランド研究会も、本部である日本アイルランド協会同様に、文学研究の発表と歴史研究の発表を同時に行い、双方の学問領域から知見を与えあう仕事を継続している。共同研究によってアイルランド研究の学際性を高める動きは、アイルランド学においてはほぼ当然のこととなってきている。しかし、研究対象となっている学術資料が、残念ながら英語ほか有力な(すなわち話者の多い)言語世界から採られたものに限られている。

こうした状況をかんがみ、平成 24 年度からの 3 年間は、『真夜中の法廷』の公刊を目指すのは当然のこととして、アイルランド、ブリテン諸島、さらにはヨーロッパ大陸にまで関わる資料の精査を進めることとした。

2. 研究の目的

アイルランド語による一次資料を研究対象とすること、可能な限り多角的かつ総合的な視点から考察すること。平成 24-26 年度、京都アイルランド語研究会は、これまでの約 10 年間の活動を土台にして、これらを基軸にした文化研究をいっそう推し進め、わが国のアイルランド研究にさらなる貢献をするために、ジェフリー・キーティング(Geoffrey Keating、アイルランド語名 Seathrún Céitinn)が著した物語的歴史の書『アイルランド史』(Foras Feasa ar Éirinn、以下 Foras

Feasa) の解説を活動の中心に据えることとした。

そもそも、アイルランド語は、ギリシャ語ラテン語を除けば最も古くからヨーロッパについて記録している言語である。19 世紀のイングランドではケルト的周縁(Celtic Fringe)に暮らす反逆者の言葉として規定されたが、現在では、ヨーロッパ史を古層から見直すための道具として認知されている。また、従来はアイルランド文学の範疇に含まれてきたものまで歴史資料として見直す傾向が生まれてきているが、ウェールズ人ジラルドゥス・カンブレシス(Giraldus Cambrensis)がイングランドに植え付けたアイルランドに関する誤った物語を解体しようとした Foras Feasa は、この動きの先駆けと言える。このように、アイルランド語による媒体を一次資料として用いれば、アイルランドのみならずヨーロッパ全体にもおよぶ歴史の組み替えの可能性が予見される。

Foras Feasa の筆者キーティングは、アイルランド出身のカトリック神父であり、歴史家であり、詩人である。チューダー朝イングランドの圧政を逃れてフランスのボルドーへと船出した彼は、当時ヨーロッパ各地で整い始めたアイリッシュ・カレッジのネットワークで学ぶことを企図していた。ボルドーで神学博士となって故郷へ帰り、死の約 10 年前 1630 年頃に代表作 Foras Feasa を著した。が、それは当局によって印刷を許されず、手稿のまま回覧された。のち 1660 年に『カンブレシスを駁す』(Cambrensis Eversus)の著者リンチ(John Lynch)によりラテン語訳がなされ、1723 年に不完全な英語訳がなされ、1902-14 年によくロンドンの Irish Texts Society よりコミン(D. Comyn)およびディニン(P. S. Dinneen)の手になる 4 巻の完本が刊行された。内容は、古代からアングロ・ノルマンの侵入に至るまでのアイルランドの歴史を語ったものである。中世アイルランド語の写本から、地名伝承、古典詩、系図、古代アイルランド諸侯の偉業を織り込み、その美しい文体により近代アイルランド語散文体の範とされてきた。また、17 世紀に芽生えてきたアイルランドの独立運動に対して歴史的なコンセプトを提供するという意味でも大きな影響を及ぼした。そのほか、物語の庫として Foras Feasa は、国民性(nationality)の理解が再び社会の争点となる 19 世紀から 20 世紀初頭のケルト民族復興の時代に、所収の神話的物語が、再話作品の素材となった。17 世紀アイルランドについては、アイルランド語の文化がどのようなものであったのか、日本ではあまり知られていない。Foras Feasa は、その後 18 世紀に書かれた Cúirt 同様に、ともすれば安易な二項対立で解釈の枠組みを作ってきたこれまでのアイルランド理解を創造的に批判し、真の学術的アイルランド研究を展開する上で枢要である。これらから始まる精査

が、時代を下って 19 世紀から現代、あるいは遡って 15 世紀以前のアイランド、ひいてはヨーロッパ文化圏の理解に向け、問いの射程を広げるもの、と考える。

3. 研究の方法

『真夜中の法廷』の訳注過程において、年に数回京都で研究会を開き、研究会場において PC とプロジェクターを利用して、訳注の担当者が英語訳、日本語訳を提示し、それを研究方法を異にする参加者全員で検討し、それぞれの見地から注を付す、という研究の進め方が定着した。研究会が終われば、進行分をデジタルファイルにまとめて速やかにメーリング・リストを通して会員全員に配布する。欠席者もこの時点で情報を共有できる。この方法を踏襲する。

ただし、アイランド語のテキストとその周辺の一次資料は、わが国では入手不可能なものが多い。視覚・聴覚資料は特にその傾向が強い。二次資料で代替することを避けたいので、研究代表者・研究分担者・連携研究者の中から年に 2 名がアイランド、ブリテン、あるいはかつてアイランド人の大陸における活動拠点であったところで資料収集、調査を行う。なお、研究期間内に少なくともひとり海外よりゲスト講師を迎え、研究会のさらなる学際性を確保し、課題の先進化を図りたい。

4. 研究成果

オズボーン・バーギン(Osborn Bergin)による教科書版とコーク大学のデジタル・アーカイブ C.E.L.T.が提供する版を参考に、定本と言えるコミン、ディニオン版を読み進めてきた。抜粋ではあるが、『真夜中の法廷』同様

- a 日本語訳 b 文法分析 c 語彙分析
e 学際的な意味注解

が進んでいる。先は見えていないが、公刊に向けて着実に資料が集積しつつある。

タイグ・オドゥーラニャ教授によるセミナーが Foras Feasa の理解を深めた。同氏は東北、東京でも刺激的な講演をされたが、ホテルコープイン京都での 2 日間(2014 年 10 月 18 日、19 日)は、京都アイランド研究会にとって画期的な時間となった。

なお、梨本邦直をプロジェクト代表として『真夜中の法廷』公刊計画が進められ、2014 年 11 月、英語訳以外ではドイツ語訳に続き世界で 2 例目、135 年振りという翻訳が出版されるに至った。語彙集、多様な視点からの解説、注解、さらには文法構造を示すための英訳まで加えた 3 言語版である。アイランド本国で高く評価され、アイランドの高級紙 The Irish Times がわざわざ取り上げることとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 8 件)

a
池田寛子、The Explorations of Ancient Memories: Shadows of Irish Tradition in W. B. Yeats's The Wanderings of Oisín、Journal of Irish Studies (IASIL Japan)、有、第 26 号、2014 年、pp.42-52

b
梨本邦直、On the Modal Use of Past Copula Forms in Irish in Saltair saíochta, sanasaíochta agus seanchais: A festschrift for Gearóid Mac Eoin、Four Courts Press、有、2013 年、pp.190-98

c
梨本邦直、国勢調査に見るアイランド語の現状と将来・アイランド語イマージョン教育学校ゲールスコイルの貢献、「エール」(日本アイランド協会学術研究部)、有、第 32 号、2013 年、pp.50-66

d
梨本邦直、現代アイランド語詩の流れ—モダニズムと二つの伝統の和解[問題提起]、「エール」(日本アイランド協会学術研究部)、無、第 32 号、2013 年、pp.179-86

e
池田寛子、リアダンとリクシルの物語を貫く喪失の痛み アイランド語作品英訳の『創造性』、英詩評論、無、第 29 号、2013 年、pp.26-36

f
谷川冬二、文学と歴史の間 京都アイランド語研究会による『真夜中の法廷』訳出に参加して見えたこと、英詩評論、無、第 29 号、2013 年、pp.37-49

g
菱川英一、『電燈』—牧歌、哀歌、光—、「エール」(日本アイランド協会学術研究部)、有、第 33 号、2013 年、pp.158-79

h
春木孝子、リアム・オフラハティのアイランド語短編小説に見る 国家と個人のアイデンティティ、「神戸松蔭女子学院大学研究紀要 文学部篇」、無、第 2 号、2013 年、pp.1-18

〔学会発表〕(計 12 件)

a
梨本邦直、春木孝子、Cúirt an Mheán Oíche: Japanese Translation, Introductions &

Critical Essays, and Grammatical Interpretations, The Chester Beatty Library および Cumann Merriman (招待講演)、2015年3月3日、The Chester Beatty Library, Dublin, Ireland

b
梨本邦直、シンポジウム 転換期のメリマン—『真夜中の法廷』の解釈、日本アイルランド協会(招待講演)、2014年11月22日、日本大学文理学部キャンパス百周年記念館

c
池田寛子、シンポジウム 転換期のメリマン—『真夜中の法廷』の解釈: 異界としての真夜中の法廷、日本アイルランド協会(招待講演)、2014年11月22日、日本大学文理学部キャンパス百周年記念館

d
谷川冬二、シンポジウム 転換期のメリマン—『真夜中の法廷』の解釈: 解釈の政治文化的文脈について、日本アイルランド協会(招待講演)、2014年11月22日、日本大学文理学部キャンパス百周年記念館

e
谷川冬二、Symposium 1 “Crossing the Border”: General Introduction & Singing Back from the Shores of Amerikay, the 30th International Conference of IASIL Japan, 2013年10月13日、京都ノートルダム女子大学

f
池田寛子、Symposium 1 “Re-Presentations-Contemporary Poetry and Ireland”: The Contemporary and Global Significance of Brian Merriman’s Cúirt an Mheán Oíche (The Midnight Court): The Challenge of Translating the Irish-language Poem into Japanese, the 30th International Conference of IASIL Japan, 2013年10月12日、京都ノートルダム女子大学

g
谷川冬二、W. B. Yeats’s ’98: Reconsidering His Spirit of the Nation, IASIL Conference 2013, 2013年7月25日、Queen’s University, Belfast

h
谷川冬二、シンポジウム「A Vision を味読する法: A Vision に見るイエイツの歴史記述について」、日本イエイツ協会第48回大会、2012年10月13日、佐賀大学

i
菱川英一、フォーラムオン「 シャン・ノー

スにおける韻律と変化」、日本ケルト学会 32回大会、2012年10月6日、鹿児島大学

j
谷川冬二、Is it a Story or a History?: A Japanese Reading of Cúirt an Mheán Oíche, 2012 IASIL CONFERENCE, 2012年8月2日、Concordia University, Canada

k
池田寛子、シンポジウム「アイルランド文学とアイルランド語の伝統: アイルランド語文学英訳が伝えること、伝えうること、伝えようとすること」、中国四国イギリス・ロマン派学会第34回大会、2012年6月2日、KKR 広島

l
谷川冬二、シンポジウム「アイルランド文学とアイルランド語の伝統: "Is it a Story or a History?"-『真夜中の法廷』の評価を通して」、中国四国イギリス・ロマン派学会第34回大会、2012年6月2日、KKR 広島

〔図書〕(計 6 件)

a
京都アイルランド語研究会(訳・著)、梨本邦直、荒木孝子、春木孝子(編集)、ブライアン・メリマン『真夜中の法廷』: 十八世紀アイルランド語詩の至宝、彩流社、2014年、339ページ

b
春木孝子、アイルランド文学: その伝統と遺産-第二章-七世紀アイルランド語詩: 大変化期を生きたアイルランド語詩の三詩人-キーティング、フェリチェール、オブルーアダル- (pp.58-76)、開文社出版、2014年

c
池田寛子、アイルランド文学: その伝統と遺産-第三章-八世紀アイルランド語詩: この世にはない法廷を求めて-二つの詩編に響くアイルランド女性の声(pp.77-96)、開文社出版、2014年

d
船戸成子、アイルランド文学: その伝統と遺産-第二章ヌーラ・ニゴーナル: アイルランド島の母神-響く大地の声(pp.572-87)、開文社出版、2014年

e
荒木孝子、福本ひろ、増田弘果(訳)、エディ・レニハン、キャロリン・イヴ・カンジュウロウ、異界のものたちに出遭って 埋もれたアイルランドの妖精話、アイルランドフェーシャ奈良書店、2014年、382ページ

f

荒木孝子、福本ひろ、増田弘果(訳)、コルマ
ーン・オラハリー、トーイン クアルンゲの
牛捕りとクープリンの物語、アイルランドフ
ューシャ奈良書店、2014年、48ページ

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷川 冬二 (TANIGAWA FUYUJI)
甲南女子大学・文学部・教授
研究者番号：50163621

(2) 研究分担者

梨本 邦直 (NASHIMOTO KUNINAO)
(2011.4.1 ~ 2014.3.31)
法政大学・理工学部・教授
研究者番号：30340748

池田 寛子 (IKEDA HIROKO)

(2011.4.1 ~ 2014.3.31)
広島市立大学・国際学部・准教授
研究者番号：90336917